



ららばい、通信

Lullaby News

2026年
夏号

特集 森とクマと人間と



画／大野隆司

【目次】

■ 特集「森とクマと人間と」

- | | | |
|-----------------------------------|--------|-----|
| クマが悪いんだろうか | 森山 まり子 | …2 |
| 「食」と「農」の新しい交流広場を創ろうよ!! | 福井 昌平 | …5 |
| 森とクマと人間 | 西舘 好子 | …6 |
| ■ ホントに本と／時を繋ぐ | 工藤 尚廣 | …8 |
| ■ COLUMN／歌手松原健之さんが歌う「Tsukinukete」 | 国見 修二 | …9 |
| ■ 連載／わらべうた 童謡 詞華抄15 | 尾原 昭夫 | …10 |
| 東西「子どもの遊戯」続 お手玉 | | |

■ 連載／子ども虐待は、今 キャロルのスーパービジョン

川崎 二三彦 …14

■ 連載／日本子守唄紀行 「水上勉と若狭の子守唄」

鵜野 祐介 …16

■ 連載 姿勢の良さも幸せのうち

帯津 良一 …18

■ 連載／直島便り さっちゃんのばら寿司

山根 光恵 …20

■ 活動報告

…21

■ 寄付者名簿

令和8年

ららばい通信 夏号を
お手元にお届けさせていただきます。

奇妙で不気味な事件が続きます。

10代、20代の殺人や事件が続きます。

京都では義父による小6の男の子が殺されました。

栃木では闇バイトによる強盗殺人事件が起きています。

兵庫では母娘共に殺される事件がありました。

いのちがそんな簡単になくなつて良い訳はありません。

どんな命もたくさんの人と結ばれ、その絆の中で助け合い、支えあつて人生を作っているのですから。

戦争はもつと残酷、今は機械で大量殺人をしています。戦争を憎むのは「いのちの敵」だからです。

逆に平和は「命の味方」であるからいいのです。

殺された命はものを言えません。泣くことも笑うこともできません。「生きている」その単純なことが幸せというもので人間の原点です。「人として人間のスペアはないのです。そして、何億年の過去の上に

「私」が生まれたのです。

「命を奪う」ことは「ゲームをする」として同じではありません。もしその息を止め、ぬくもりを奪うことができるとしたら、その人間は人間ではなく悪魔です。悪魔を育てる手助けをする、そんな親になつたり社会であつてはこの世も終わりです。

皆に問いましよう。「人は何故生きているのですか？」

私は今、この歳になつて初めて神話を見直しています。

八百万の神がそれぞれに国造りをし、その神に見守られ、禊り、命を持つあらゆる生物と共に生きる矜持を持つという、人間の精神の根底を描いた神話は、戦後GHQの科学的根拠のないものとして教育から外されてしまいました。本当に惜しいことです。

なぜ殺し合うのか。どんなことがあつても命を抹殺してはいけません。永遠に生き続けることはない誰かが知っているからといって、いつ死んでもいいということではないのです。生きているからこそ生きているうちに何かする。みんなそう思つて生きているのに、そんな人に刃を向けるなどあつてはいけません。

「千の風になつて」の日本語詞と作曲を手掛けた新井満さんとお話した時、新井さんは本当に死んだら風になると信じていたことがわかりました。お母さんがお産婆さんで「人間は誰もが役目を持つて生まれてくる。役目を終えたら、魂はいつどこにでも風になつて懐かしい人に吹いてくる」と子供のころから満さんにおつしやつていらしたそうです。

吹く風に、流れる水に、輝く太陽に手を合わせる教えは、女性によつて子供に伝わつていくものです。

日本子守唄協会 理事長 西館好子

特集

森とクマと人間と

クマが悪いんだらうか!?

日本熊森協会 名誉会長 森山まり子（兵庫県在住）



てくれる人に対する感謝の気持ちを忘れません。

人身事故…本来、平和主義者で人を襲う習性はありません。人身事故は、人に恐怖を感じたクマが、人から逃れる時間を稼ごうとして起こる。

す前足パンチの一撃で、人間がひるんだすきに逃げていきます。爪が鋭いため、時には人は大けがを負います。

(2) 当時、西日本などでクマ絶滅の危機

私たちの活動のきっかけは、1992年にさかのぼります。奥山の大型野生動物クマが山から出て来はじめ、有害獣として次々に駆除されたことで、西日本で絶滅の恐れと報道されました。

クマたちが山から出て来る当時の最大原因は、林野庁の拡大造林政策により、クマたちの生息地であった広大な天然林が皆伐され、スギやヒノキの人工林へと置き換えられました。しかし、その後の林業不振で人工林は放置され、荒廃が進んでいます。大雨の度に各地で土砂が崩れて災害を多発させています。

跡地に植えられた人工林にはクマの餌となる実がならず、生息環境が失われたことでクマは人里へ出るようになりました。人間は、クマに敵意を抱かせたり恨みを買うような言動を慎むべきです。奥山に造り過ぎたスギやヒノキの人工林を天然林に戻して、クマがも

(1) 本州と四国に住むツキノワグマについて

食べ物…クマは食肉目に属する哺乳動物でしたが、進化の過程でほぼ植物食の雑食動物に変化しました。動物性ものを食べるとしたら、アリやハチなどの昆虫ぐらいです。ハチミツや米ヌカが大好物。何キロも先から察知してやってきます。

単独生活…子育て中の母子以外は、ふだんは森の中で一人ひっそりと単独生活をしており、人間が山に入つて来ると遠くから察知してそっと身を隠して移動します。そのため、クマが生息する山に入つても、まず人がクマに出会うことはありません。

推定生息数…最先端の科学技術を用いても、実態に近い生息数を出すことは不可能ですが、一定区間内に誘引物を設置して写真撮影や統計学を使って生息数の推定計算をしています。



う一度奥山に帰れるようにしてほしいと、何
度も国にお願いに行きましたが、動いてもら
えませんでした。私たちは、クマが再び奥山で
暮らせるよう、人工林を天然林へ戻す活動に
取り組んでいます。

(3) 東北地方のクマ大量出没を受けて 国のクマ対応が捕殺一辺倒に

まだ深い森がそれなりに残っていると思わ
れていた東北地方ですが、2023年の山の
実りが凶作だった夏、山では弱い立場の子連
れの母グマや若グマたちが、夏から餌を求め
て大量に山から出て来るという異常事態が発
生し、人身事故も多発しました。

環境省は2024年3月、クマをシカ、イノ
シシに次いで指定管理鳥獣に指定し、捕殺強
化により生息数を低減させることにしまし
た。

2024年は山の実りも良く、2023年
の大量駆除後ということもあって、いったん
東北のクマ騒動は落ち着きましたが、山の実
りが大凶作年となった2025年は、春から
2023年をさらに上回る数の大量のクマた
ちが餌を求めて集落や市街地に出て来て、連
日大騒動となりました。

環境省は2025年4月、クマとイノシシを
危険鳥獣に政令で指定し、市町村長の許可だ
けで市街地でも発砲できる「緊急銃猟」の制
度を導入。11月にはクマ捕獲を後方支援する
ために、秋田県に自衛隊が派遣されました。

(4) 東北地方のクマ、2025年度推定 生息数の71%を駆除し、狩猟も実施

2025年度の東北6県のクマ推定生息数
の合計は1万2462頭で、駆除されたクマ
数は8598頭。生息推定数の71%ものクマ
が捕殺されたこととなります。また、この年
の東北6県における人身事故は、158件で
うち死者は10名でした。

以前から環境省はクマの絶滅を避けるた
め、捕殺上限を12%(最大15%)と決めていま
したが、クマ問題は閣議でも取り上げられ、
国も地方も世論もクマ駆除一択に突き進ん
でいき、2026年になると国はクマ対策に
62億円の国家予算を組みました。

(5) 子供たちに見せられない マスコミの報道

テレビやネットは朝から晩まで1日中、クマ
への恐怖をおおるセンセーショナルな人身事
故報道を繰り返し、全てのクマは人を襲う危
険な動物として認識され、世論は一気にクマ
撲滅に傾いていきました。

クマによる事故や出没は、実際には人から
逃げようとした行動であっても、「襲撃」「居
座り」「立てこもり」など、凶悪殺人犯のよう
な表現で報道されてしまっています。

パトカーのぐるぐる回っている赤色灯、盾を
持った警察官たちや銃を持った人たちの走り
回る姿。次に映し出されるのは、ハチミツや米



物などあらゆるものに神が宿ると考え、感謝
と祈りを捧げます。

稲作が普及してくると平地の森の木が伐採
され、田畑として安定した食料が得られるよ
うになると、人口が増え始めます。そのた
びにクマをはじめとする野生動物たちは少し
づつ山に追いやられていったと考えられます。

飛鳥時代になると殺生を禁止する仏教
が入ってきます。675年(飛鳥時代)に天
武天皇が肉食禁止令を出し、なんと明治4年
(1871年)までの1200年間続きます。
徳川5代将軍綱吉の「生類憐みの令」におい
ても、綱吉が人にも生き物にも優しい生命尊
厳国家を目指していたことがわかります。

(2) 江戸幕府の徹底した奥山保全策と、人とク マの完全棲み分け

江戸幕府は徹底した奥山保全策をとりま
した。奥山での木の伐採を禁じただけでなく、
奥山に入ることも禁止しました。違反者には
見せしめとして、「木1本首ひとつ」などとい
う厳しい処罰が実際になされたそうです。
この結果、日本の広大な奥山はクマをはじ
めとする野生動物たちの聖域(サンクチュア

リ)となり、明治になるまで1種の生き
物も絶滅させなかったのです。

奥山は水源の森として徹底的に保
全され、稲作漁撈文明を支え続けまし
た。

このような人間界と奥山との完全分
離は、昭和になってもしばらく続いてい
たようで、中国山地では標高800mが
人とクマの棲み分けラインで、そこから奥は民
族の不文律として猟師でさえ入らなかったと
証言されています。

決まりを守ったのは人間だけではなくクマ
も決まりを守りました。クマは戦後の拡大造
林が始まるまでは、山から出てくることにな
らなかったのです。水資源だけは他国もうらやむ
豊富さでした。

一方、幕府は里山の利用は認めていまし
たから、人々は絶えず木を伐るなど徹底的に里
山を利用していたようです。その結果、里山
の多くは、はげ山やアカマツの疎林になっ
てしまっていたと言われています。

(6) クマが山にいないとの 生態学的な意義

いち早くクマ数を低減させて人的被害を
ゼロにしたいという関係者の気持ちはわか
りますが、捕殺だけで対応しようとするのは大
変危険です。

過去にオオカミ絶滅後にシカが増え、森
環境が悪化したように、クマが減少すれば森
の生態系や水源機能にも深刻な影響を及ぼ
す恐れがあります。兵庫・鳥取県境に位置
する氷ノ山(ヒョウノセン、標高1510メー
トル)にあるブナやミズナラの巨木の森は、30年

又カの臭いに誘われて親子で箱罠に入っ
てしまい、呆然自失状態の哀れな母グマ。不安そう
に母グマを見上げる子グマたち。この親子は
町に出てきたクマということだけで、今から
殺処分されるのです。

毎日、こんなニュースばかり見せられて
いたら、クマたちとの共感本能を失っている
子供たちの心にも大きく影響を及ぼし、生命
尊厳がわからない大人になってしまうのでは
ないでしょうか。

学校教育にも責任があります。国民に生態
学的な知識や祖先の全生物との共存の知恵が
伝えられていないからだと思います。

これらの意義や知恵を知ること、今、私
たちはクマ問題にどう対処すべきなのか、も
っと別の対応策が考えられるのではないかと
思います。

学校教育にも責任があります。国民に生態
学的な知識や祖先の全生物との共存の知恵が
伝えられていないからだと思います。

これらの意義や知恵を知ること、今、私
たちはクマ問題にどう対処すべきなのか、も
っと別の対応策が考えられるのではないかと
思います。

学校教育にも責任があります。国民に生態
学的な知識や祖先の全生物との共存の知恵が
伝えられていないからだと思います。

これらの意義や知恵を知ること、今、私
たちはクマ問題にどう対処すべきなのか、も
っと別の対応策が考えられるのではないかと
思います。

学校教育にも責任があります。国民に生態
学的な知識や祖先の全生物との共存の知恵が
伝えられていないからだと思います。

これらの意義や知恵を知ること、今、私
たちはクマ問題にどう対処すべきなのか、も
っと別の対応策が考えられるのではないかと
思います。

学校教育にも責任があります。国民に生態
学的な知識や祖先の全生物との共存の知恵が
伝えられていないからだと思います。

これらの意義や知恵を知ること、今、私
たちはクマ問題にどう対処すべきなのか、も
っと別の対応策が考えられるのではないかと
思います。



日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦と戦勝が相次ぎ、日本は黄色人種として初めて欧米列強と肩を並べる国力を持つようになりました。しかし、1945年、第二次世界大戦で圧倒的な物資の豊かさを持つアメリカに完膚なきまでに負けてしまい、敗戦国となります。

戦後、日本はアメリカのような物質的に豊かな国をめざして、経済発展に全力を注ぐようになりしました。その結果、国土の自然はさまざまに破壊され、今もなお自然が破壊され続けています。

中でも、クマにとって致命的だったのは、前述したとおり、林野庁が進めた拡大造林政策です。人とクマの棲み分けラインを一方的に破って、戦後、どっと奥山にだれ込んだのは人間の方であったことだけは記録しておきたいと思います。

こんな中、現在、国は「2050年カーボンニュートラル」をめざして、再生可能エネルギー名目のメガソーラーや、尾根筋巨大風車群を推進しており、奥地の国有林に最後に残されたわが国の原生的自然林までもが次々と伐採されようとしています。これを止めないとクマの生息地は完膚なまでに完全に破壊されてしまうことでしょう。

尾根筋に風車が立つと、超低周波音や振動に耐えられないのか、山からクマが出て来るようになったと各地で聞きます。

このような戦後の人間第一、経済第一、科学技術の規制なき使用によって、日本各地で森からの湧き水が著しく減少しています。

人工林）が荒廃している。

③里山と人家で育てた作物の味を知ってしまったクマの個体数が増加している。

がその要因に挙げられている。

要は、日本の農村システム（農作物を生産し、流通・販売するまでの仕組み）の自立自存性が大きく失われていることが明らかにになったことだね。

今から62年前、私も18歳で学業のため上京するまでは村落に隣接した「里山」で二十世紀梨の共同果樹栽培と、裏山の「共有林」の保全管理（間伐材採取と下草刈り）に駆り出された。ついでと言ってはなんだが、キノコや薪や多様な山の幸などの採取には、子供たちも重要な役割を担っていた。でも、これまで維持してきた保全パワーと保全タイムがいよいよ限界点に達してきたんだね。郷里にいる同窓生は、「里山と共有林の保全は、農村と農家だけではもう無理」と叫んでいる。

「令和の米騒動」も大変だ。『コメ・ショック』を書かれた鈴木宣弘先生は、「令和の米騒動」の発生は、単なる突発的な出来事ではなく、「戦後70年以上にわたって進められてきた日本農業の弱体化政策が、ついに限界点を越えた」と、明確に論述されている。

なんと、日本の稲作農家の時給は10円だよ。日本を軍事と経済と食糧で永続的に支配下に置こうとするアメリカの占領政策以降、日本の農業、つまり「農民」「農家」「農村」が連携した持久力と持続力が奪われ、日本の戦後

私たちは、このまま今以上の快適さ・便利さを求めてどこまでも水源の森を破壊し続けるのか、全生物のために次世代のために、ライフスタイルを転換するのか、今、その選択を迫られています。他生物にも優しい文明が一番優れており、持続可能な文明なのです。

私たち日本熊森協会は、クマをシンボルに日本文明を支えてきた奥山水源の森の保全・再生活動に取り組んでいる民間自然保護団体です。

農民と都市民が共に創る

「食」と「農」の新しい 交流広場を創ろうよ!!

C-戦略プロデューサー
イベント学会副会長 福井昌平

昨年の2025年は、前半で「米騒動」と「令和の百姓一揆」、後半では「令和の熊騒動」が圧倒的に話題をさらった。

実は根っこは同じで、しかも一時的な問題ではない。日本の戦後の農業・農村政策の負の側面が一挙に露出した結果だと、私は思う。

政治体制はほぼそれに迎合してきた。とくに1985年のプラザ合意以降は露骨だね。それまでは「日本列島改造論」や「田園都市国家論」で日本各地の活性化施策を打ち出して、なんとか均衡ある日本の発展を目指すプランに取り組もうとした。しかし、プラザ合意以降は、文化や情報の発信地が東京に集中する「東京一極集中」と、経済活動が特定の地域や都市に集中する「工業化経済一極集中」、これでは地方は置いてきぼり、過疎化していく一方だ。

過度にアメリカに依存しアメリカとの協調が最優先される「対米従属一極集中」に埋没し、農業・肥料と種苗の海外依存も加えると食料自給率は実質10%台だと指摘する論者もいる。これに重なるように、地球規模の温暖化作用で、気候崩壊の危機と食糧危機を警告する動きも出て来た。「自給」思想を喪失してしまったら、日本は完全にアウトだね。

こうした中で、「米農家はあと5年が限界だ!!」「米農家、ヨーロッパ先進諸国の様に農家の所得保障を!!」と訴えて『令和の百姓一揆』を推進する菅野芳秀さんらの活動には希望があるね。実は、我がファミリーは、菅野芳秀さんが耕作する自然派農業から生産されたお米を、数年前から年間定期購入している。実に美味しい。

きっかけは、菅野さん達が推し進めてきた山形県の『置賜郡自給圏構想』で自然派農家としてのお米作りと養鶏に共感したからだ。

まずは「令和のクマ騒動」だね。専門家の所見によれば、

①クマの個体数が増加して、必然的に生息域が拡大している。

②クマの生息域である奥山の主食・どんぐりの不作と、活動の主舞台である森林（特に

菅野さんは、「農業は、先ず自給、次に地域内消費、そして最後に全国消費、更に海外消費」と提唱している。

佐賀の農民作家・山下惣一さんと連帯されて、現場の声を取り入れ「自給圏」農業を推進されてきて、地元の仲間を増やすだけでなく、共感共鳴する消費者・生活者・市民との繋がりを積極的に構築されてきた。我がファミリーも、自給圏農業への応援と仲間入りを目指し始めている。実は、こうした動きが全国の自治体や市民参加型プロジェクトで数多く生み出され始めている。

次に学校給食において、無農薬有機栽培の農産物を積極的に採用し、地元農家と定期契約を優先的に推進している事例を紹介したい。

地元には農業のない都市型の自治体や医療機関や教育機関が、自然派農家と繋がって食料の購入計画を立てている事例。この場合には、子供たちや関係者たちの「定植体験」や「収穫体験」など、豊かな農業参加体験交流も生まれている。

縄文以降、先人たちが継承してきた雑穀の栽培文化を、種子の継承と共感する市民と連携して「自給圏」農業に構築する事例。都市近郊の農村地帯では、半分は農業をしながら、もう半分で自分がやりたいこと（X）を行う生き方Ⅱ「半農半X」の人材の育成に積極的に取り組んでいる。援農システムの構築から本格的な農民育成と農業法人育成に取り組む



事例も出て来ている。また、社会福祉法人が積極的に農業に取り組む事例も生まれたし、神奈川県のように、農業分野と福祉分野が連携する「農福連携」を推進する産官学共創組織も誕生してきている。生産者と消費者の多様なマッチングを仲介する流通業者も現れて来ているね。いずれも「市場原理優先」を推進してきた日本の農政から生み出されたものではなく、日本の大地に根付いた「自給圏農業」

（私は、新しい「農業コモン」構築の発想だと思う）、農民と市民との内発型のチャレンジ精神の成果であると思う。その発想と共感から生み出された農民と市民との内発的チャレンジ精神の成果であると思う。

ここを応援するのは日本の「本当の農政」でなければならないと思うね。

子守唄の研究過程で、人間はいつごろから子守唄を歌いだしたのだろうか、という疑問にぶつかった。言葉や字がない、妊娠や出産の科学的知識のない時代に人は果たして子守唄など歌うことができたのだろうか。

昨年の夏には「コメがつなぐ自治体間農業連携首長協議会」通称コメサミットが生産地の16自治体でスタートし・農水省も正式にオプザバーで参加している。この流れは止められないね。

クワツ クワツ クワツ
カアー カアー カアー
ホーッ ホーッ ホーッ

私たちが応援してきた群馬県下仁田町の『女性村ねぎぼうず』も、いよいよ「農業体験」をスタートさせたそう。独特のジオパークの上で成立してきた名産品の下仁田葱や植物栽培と消費を、「自給圏農業」の発想から実践に踏み切った。みんなが丸となって連携して支え合って自給の道を見つけていく試み、そういう新しい「農業コモン」に育って欲しいね。我がファミリーも、応援するよ。

アイヌに残されていた簡単な代表的な子守唄だ。いずれも動物や鳥の鳴き声で歌われている。クマとカラスとフクロウの鳴き声を繰り返して赤子に発していたようだ。歌というより呪文だったのかもしれない。いったい何を意味していたのだろうか。

「祈り」は子守唄の基本だ。ここで子守唄の歴史を述べるつもりではないが。以来、クマは「熊」として最も強い動物として我が国に君臨し、カラスは朝廷の使いとして貴重な存在であった八咫ガラスを長として神鳥として扱われた。フクロウは今も知恵の象徴だが絶滅が危ぶまれている。森の中にその居場所を確保していた鳥や動物たちは

今では「害獣」「害鳥」として人間社会から目の敵にされている。

クマが命の恩人

アイヌに生まれた中山さんという方は、白老の森に遊びに行き、山から滑って気を失ってしまった。当時7歳と記憶していた。気が付いたとき、暖かな黒い布団に寝ていたようだったという。クマがその懷に中山さんを抱きかかえていたのだ。

嘘のような本当の話だ。クマは優しい目をしていたという。風とクマの匂いが混同した中で中山さんは大きな木の根っこにどんと構えたクマと一緒に森の静けさと鳥の声を何の恐怖も感じることはなかったという。森は優しいと感じ、うつらうつらしながら、周りからさまざまなにささやくような音楽が聞こえていたと確信している。

あれは「森の子守唄」と中山さんは言った。起き上がった時、クマは襲っても来なかったし、黙って森に消えていったという。

中山さんは子供心に何かお礼をしなくてはならないと思い、家から持ってきた蜂蜜を森に置いてきたという。何回か続いているうち、父親に見つかり、こっぴどく叱られ、一度だけ他人の家の蜂蜜を盗んで持って行ったところ、後をつけてきた父親に見つかり、居合わせたクマは父親の鉄砲で射殺されてしまった。父親不信とクマへの申し訳なきが後の家出につながったという話だった。

クマをみなおしたい

日本子守唄協会 理事長 西館好子

前の日常だった。家の玄関に置かれた甕には亡くなった子供の骨が収められている。天に返すということだったらしい。

クマとカラスとフクロウが選ばれたのには理由があった。クマのような無敵な強さを、カラスのような予知能力を、そしてフクロウのような四方に回る首を持つ賢さを、生まれた子に与えてほしいと天に、神に祈った。

「祈り」は子守唄の基本だ。ここで子守唄の歴史を述べるつもりではないが。以来、クマは「熊」として最も強い動物として我が国に君臨し、カラスは朝廷の使いとして貴重な存在であった八咫ガラスを長として神鳥として扱われた。フクロウは今も知恵の象徴だが絶滅が危ぶまれている。森の中にその居場所を確保していた鳥や動物たちはたのは私だけだろうか。クマもまた絶滅させられるとしたら…そのときは森も人間も滅亡するときかもしれない。

本当の豊かさや幸せとはいったい何なのだろう。豊さを測るハカリも、幸せの基準というものもありえない。人は求めるあまり退化していつてしまったのではないだろうか。頭でっかちな学問で、解説や主張や紛らわしい言語で「自然」や「環境」を論じたりするのはなく、森という居場所を失った動物のことや、餌をなくした鳥のことや、過去の先人たちの叡智を感じることから始めてはどうなのだろう。物言わぬ地球上の生物に、現場に目を向け、本当の意味の「生き物全ての生き場所」を理解し、作り、人間は進歩を行き過ぎては終わりが来ると謙虚に受け止め幸福を感じる、「笑顔」がある暮らしに目を向けたいとしみじみ思う。

クマと人間の住む境界線がなくなりつつある現在、本当はどちらにも不幸なことなのだ。



松永伍一先生の縁で生まれた 歌手松原健之さんが歌う 「Tsukinukete」

国見 修二

—Tsukinukete—

今日という日が始まる
変わらない いつもの朝
同じに見える風景は たえず移ろう
誰もが悲しみを抱え

不安感じて生きている
突き抜けよう 突き抜けよう
やがてつぼみが 花開くように
突き抜けて 突き抜けて
雲の彼方の青空へ

今日という日が終わるよ
行き交う 夕暮の街
同じに思う人の心も たえず移ろう
誰もが夢を持って

笑顔欲しいと願っている
突き抜けよう 突き抜けよう
今こそ自分を信じて踏み出そう

突き抜けて 突き抜けて
閉じた心を解き放せ

突き抜けよう 突き抜けよう
やがてつぼみが 花開くように
突き抜けて 突き抜けて
雲の彼方の青空へ

突き抜けて 突き抜けて 青空へ
突き抜けて 突き抜けて 海原へ
きっと君を待つ人がいるから

5月15日五人の作家展にて。
(左から)西館好子、松原健之、筆者、近藤征治



今年の4月、歌手・松原健之さんの新曲「Tsukinukete」がリリースされた。松原さんは詩人の松永伍一先生から「松」の文字を、小説家の五木寛之さんから「之」の文字をいただいた歌手である。私も松永伍一先生を詩人の師と仰ぎ、日本子守唄協会の西館好子先生、松永伍一先生の教え子であり画家の近藤征治さんとのご縁から、松原さんと交流を重ねてきた。そんな中、西館先生の「これからは詩人が歌詞を作る時代よ」という言葉をきっかけに、松原さんから「気楽に歌詞を書いてみて下さい」と作詞のお声がかかった。松原さんは「わかりやすい言葉の中に国見さんらしさを入れて」「5・7調を意識された歌用の詩もトライして下さい」「遊び感覚で作詞してみて下さい」などと温かな助言をいただいた。

松原さんから励ましのメールをいただく中で、詩はリズムが重要であり歩クリズムから生まれるのだと再認識し、私は「歩くこと」から言葉を生み出そうと思い立った。歩きながら言葉を口ずさみ、ノートに書き留める日々を続けた。

また、2年前に妻を亡くした悲しみからも「突き抜きたい」という思いとも重なり、『Tsukinukete』の歌詞が完成した。若者への応援歌のようだが、自分自身への励ましでもある。実際に80歳を過ぎた方から「この歌は私の為に書かれたものだ」と言って下さり、年代を超えて受け入れてくれる歌になったと実感している。閉塞感が漂う現代社会、一歩勇気を持って歩み出して欲しい、そんな気持ちで歌詞を作らせていただいた。

松永伍一先生の詩「蛍よ」「ブルー・スカイ～あなたと飛びたい～」を松原健之さんは歌ってこられた。「チーム松永伍一」のご縁から生まれた「Tsukinukete」が、これからも多くの人に勇気を届けてくれることを願っている。

ホントに
本と

便利屋ライターの本と
「時を繋ぐ」

事實はフィクションよりも曖昧模糊

文・工藤 尚廣

歳をとると「情」という概念は希薄になる。還暦を過ぎたら時間の進み方は急加速し、出会える人の数よりもなお別れる人たちが増えていくのだから、それは人として正しい往く道なのだと思う。だが、時としての摂理に反する出来事が起こる。

仮に早坂さんとしておこう。

提灯記事専門の便利屋ライターの私と国立大学名誉教授夫人の早坂さんの出会いは「ほんとにほんと」というよりは「まさかのまさか」という偶然であった。2024年1月だったか。詳細は割愛するが、そのときは既に他界していた俳優の宝田明さんを介して知り合ったのだった。私と早坂さんは新潟県村上市出身。県立村上高校の同窓生だが4学年先輩の早坂さんとは当然ながら面識はなかった。宝田さんは満洲育ちだが、敗戦後、祖先が眠る村上へ引き揚げている。つまり3人の繋がりには「村上」で…。これも文字数の都合で、はしょらせてもらう。

早坂さんは市民活動に熱心な人で、「憲法九条」や「日の丸」「君が代」などの問題に取り組んでこられた。ノンボリの私はそういった問題には耳を塞いできたのだが、ミッション系名門大学理系女子、私立女子学園教員、大学教授夫人という、同じ高校を卒業しながらも私とは雲泥の差の華麗なる人生を過ごしてきた早坂さんの内面が、ライターという職業柄か、とても気になった。

何度か情報交換をしていて、早坂さんの過去が本に

なっていると知った。それが1990年2月に発行された「時を繋ぐ」だった。当然絶版本。私はメルカリでゲットした。

本書は1983年の足立区の女子学園を舞台に、不当な労働環境やパワハラに立ち向かった4人の女性教師を描いた小説。その中の一人は校長命令で職員室から追い出され隔離部屋に押し込められる。学級担任どころか教科担当も外されてしまう。その理由は産休を2回とったから。

最初は「嘘だろ」と思った。これは戦前の話か。はたまたバブル後のリストラの嵐の時代か。だが、違った。高度成長経済期を経て生活が豊かになった80年代の日本、それも子供たちの人格形成に携わる教育現場で実際に起こった出来事、いや事件なのである。

本書はフィクションなのだが、著者の平瀬誠一氏が事件の当事者に丁寧な取材を重ねて書き上げた。その取材対象者の一人が早坂さんだった。

読了後の私の感想は「フィクションもきちんとした下敷きがあればファクトになる」だった。それを早坂さんに伝えると「きつと平瀬さんは喜んでくれただろうね」と言う。残念ながら平瀬氏は2021年に他界されている。

そして「でも、やっぱりフィクションだよ」とも。実はこの事件は2013年に裁判で結審するまで、実に33年間も法廷で争い続けたのである。「時を繋ぐ」はまさにその端緒におけるひとつのエピソードに過ぎない。

いわゆる書評として締め括るのなら「大国となった戦後日本における教育界の封建的内幕を暴く一冊」となるのだろう。

しかし、事實は小説よりも

過酷だった。長きわたる闘争で、早坂さんは「精神的に追い詰められてなにかも投げ出したくなった」とも。本書と現実の出来事を俯瞰してみても痛感したのは、「事實はフィクションよりも曖昧模糊としている」。つまりファクトは人によって捉え方が変わるということだ。

現在の早坂さんは「あれだけの体験をすれば、もう私の人生で辛いことは起こらない」と言う。これは荒行を修めた比丘尼の境地か。あ、ミッション系だから修道女か。儒教的にびつたりの言葉浮かんた。来年、古希を迎える早坂さん、まさに「七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」。これが私が知っていたかった早坂さんの内面だったのかもしれない。

そんな立派な先輩がいながら、こちらは呑気な便利屋人生を謳歌してきたため「六十余にして優柔不断の極、道の誤り限りなし」である。

なるほど、早坂さんとは愚弟賢兄ならぬ、愚弟賢姉の関係か。それなら「情」が湧いてもおかしくはない。少なくとも「時を繋いだ」関係ではある。

工藤尚廣 プロフィール

1960年4月25日生まれ。「はい、はい、はい、そこそこまい」が取り柄の提灯記事専門ライターとしてテレビ情報誌で取材・原稿執筆。「不思議航海」(内田康夫著/東京ニュース通信社刊)、「テレビの国から」(倉本聰著/産経新聞出版)など書籍を企画。「雑駁の日録」「祖国への挽歌」をユニコ舎より上梓。近年、脊柱管狭窄症と頸椎後縦靱帯骨化症を罹患し、「スフィンクスの謎かけ」を身をもって実証中。

時を繋ぐ
著者:平瀬誠一
発行:1990年2月10日
発行元:新日本出版社



東西「子どももの遊戯」

続 お手玉

わらべうた 童謡 詞華抄 15

わらべうた研究家 尾原昭夫



智育女児遊寿語六 楊州周延画
「お手玉」
明治29年(1896)

小石を用いるお手玉

今のお手玉に近い遊びを古今の辞書に当たって見ると、江戸初期慶長期のポルトガル語辞書『日葡辞書』に、「いしなご」Ishinago 子供の遊びの一つ。小石を宙に投げ上げて、それを手の甲で受ける遊び。擲石イシナゴ。」とあり、江戸後期安永期の『物類称呼』には、「石投」、江戸にて、手玉といふ。東国にて、石なご、又、なごこと



倭漢三才図会 寺島良安著
「いしなご」
江戸中期(1712)



尾張童遊集 小寺玉晃著
「いしなご 五つ石」
江戸後期(1831)



江戸遊戯画帖 津田久英画 「石投子」
江戸後期 横浜歴史博物館

もいふ。中国および薩摩にて、石なごといふ。」とある。さらに今の『日本国語大辞典』では、「いしなご」【石子】古くから女兒の間にけなわれていた遊戯の一種。いくつかの小石をまき、その中の一つを投げ上げて落ちないうちに、まいた石とともに取り、早く拾いつくしたものを勝とするもの。現在のお手玉に似た遊び。いしどり。いしなごとり。いしなごり。いしなげ。いしなご。」などの記載が見られ、お手玉はわが国では古来、小石を用いて行なわれ、各地の呼び名もじつにさまざまで、その遊びがいかに盛んであったかを知ることができる。古くは平安時代の後期、『栄花物語』にも、村上帝のご幼少のころの次のような記述がある。

「今の主、御心ばえあらまほしく…つれづれにおぼしめさるる日などは、おまへに召出でて、ごすごろくうたせ、へんをつかせ、石なごりをせさせて、ごらんじ…」
さらに、鎌倉時代中期の『源平盛衰記』には、「頼朝子息、左衛門督頼家の未だ少なくて、十萬殿と申しける時、…(知康)庭上に走り下りて、同じほなる石を四ツとり持ちて、目より下にて、片手をもつて数百手の一二を突き、左右の手にて数百万を突き、様々乱舞して、をうをう音をあげて、よく一時突きたりければ、…」とあり、ここでは小石を上へ投げ上げては回しその数を競う、今のお手玉の八揚げ玉Vにも共通する芸を「一二を突く」と称し、大人も含めて大いに競い楽しんでいたことが読み取れる。

石なごの玉のおちくるほどなきに
過ぐる月日は変りやはする

西行

江戸後期の喜田川守貞著『守貞漫稿』には「いしなご」の、より具体的な方法が記されている。

石子「いしなご」と云、今京坂にては「いしなごとり」と云。女童集り各々小石或は二つ或は三つを集め、一童之を持ち席上に抛蒔き、その数石の内一石を取り、是を尺ばかり或は二尺三尺上になげ上げ落来る間に二石をとりて後、落る石を受け席上の石とり尽せば再び之を散らす。今度は三石づつを取て落る石を受、三四回之に準じ七回に至り畢とす。半に受過(あやまて)る時は次の童に譲る。又無患子を以て石に代て之を為すを「むくろじとり」と云。又ぜづ貝と云小螺にても之を為す。ぜづがい江戸にてきしやごと云。

羊の後足の骨のお手玉



子どもの遊戯
「お手玉」 Pieter Bruegel
1560

ここで前回に続き、ブリュゲルの絵により洋の東西のお手玉を比較してみよう。見る通りわが国のお手玉とまったく変わらない動きで遊んでいる様子が描かれ、また、お手玉を見つめる眼差しにその真剣さが迫ってきてまさに感動的である。ただ、その材料は羊とか豚などの動物の後足の骨の一部であることが大きな違いで、その背景としての生活環境や食習慣の違いを強く感じさせられる。ここでも森洋子氏の『ブリュゲルの「子供の遊戯」―遊びの図像学―』から、お手玉の箇所を引用させていただきたい。

かなり年長の二人の女の子がしゃがんで、bikkelとよばれる羊の後足の骨でできたお手玉であそんでいる。一人は籠に、他は前掛けに自分のお手玉を入れている。このお手玉は解剖学的にみると、

わが国では、近世に入り平和が訪れ各地に産業も興って、木綿なども普及し衣類が豊かになると、布の端切れを利用して小さな袋に作り、中に小豆や小鈴などを入れた、見た目も美しく耳にも優しい、まさに芸術品のようなお手玉を用いるようになる。次は、前に続く『守貞漫稿』の「御手玉」の記述。

江戸にては縮緬小裁を以て方寸ばかりに袋を造り、其中に小石或は小豆等四五粒或は七八粒縫い込めて之を為す。名づけて「御手玉」と云、「てだまとり」と云。又、三都ともに右の品を持て、始め数個を掌に握り、是を僅に抛上げ忽ちに掌を返し甲にて受、又抛て再び掌に握り数個を落さざるを勝とす。



幼稚遊昔雛形 静斉英一画
「お手玉」
江戸後期(1844)

羊(小牛や豚でもよい)の足根骨として分類される七つの骨の一つ、距骨である。骨は脂肪分を抜くためソーダで煮たり、ときには玉ねぎの皮で着色することもあった。(略)ブリュゲルの時代は一回に五個のお手玉で遊ぶのが習慣だったが、この絵でも女の子が五個のお手玉のうち、ちょうど一個を空中に高く投げ、その間に五通りの技を示している最中である。お手玉は通常、二人ないしそれ以上の人数で遊ぶ。この遊びは、もともと古い起源をもつ子供の遊戯の一つで、すでに紀元前一〇〇〇年を遡る古代トラキアでも遊具として使われていた。古代ギリシャで未来を占ったり、トラキア人と同じくギャンブルの時のダイスとして使われた。(略)もつともポピュラーな遊び方は、五つの骨を同時に空中に投げ、それを一度に手の甲で受ける。それからもう一度投げ、今度は掌で受ける、というもので、かなりの技巧を必要とした。

(注「トラキア」バルカン半島南東部の地域名。「ダイス」さいころ。)

布袋のお手玉



三越絵草紙
「お手玉」
大正期

お手玉の唄

お手玉には大きく分けて八投げ玉系▽と八突き玉系▽との二通りの方法があり、それにともなう唄の方も投げ玉系は八数え唄形式▽が多く、突き玉系は投げた玉の受け方と床面での玉のさまさまの技に直結する唄で長編が多い。次に数え唄形式と突き玉系の一例を挙げる。一つは東京都八王子市下恩方の例で中世以来の「大黒舞唄」からの転用、次は同じ東京の明治刊『あつま流行時代子供うた』からの例。

○一に俵を振りふりまわし 二にっこり笑って
三に盃受け取って 四つ世の中よいよいと
五つ出雲の若恵比寿 六つ無病息災に
七つ何事ないように 八つ屋敷を買い広め
九つここへ蔵を建て 十でどうとう治まった

(以下略)

○おひと、お二た、お三、お六う、なつてくりヨ、トンキリ、
おひと桜、トンキリ、お二た桜、トンキリ、お六う桜、トンキリ、
一寄桜、トンキリ、お七返し、トンキリ、お載せ、トンキリ

(以下略)



続浪花風俗図会
三代 長谷川貞信画
「お手玉 おじやみ」
明治期

連載 17

子ども虐待は、今

キャロルの スーパービジョン

子どもの虹情報研修センター

川崎 二三彦

ミニ講座

私が働く子どもの虹情報研修センターでは、子どもや家族を支援する職員の専門性向上に寄与し、今後の子ども虐待対策に貢献することを狙いとして、支援機関、支援者をはじめ、誰でもいつでも簡単にアクセスでき、学びを得られる動画版の「ミニ講座」を制作し、ホームページに載せている。

その一つとして、新たに「温故知新シリーズ」を企画し、手始めに「キャロルのスーパービジョン」をアップした。ではなぜ「温故知新シリーズ」なのか。まず最初にその点に触れておきたい。

「STUDY THE PAST（過去に学ぶ）」

これは、アメリカ国立公文書館に鎮座している巨大な人物像の台座の一つに刻まれた言葉だ。かつて私は児童相談所で働いた多くの先輩た

ちにインタビューをしたことがあったが、まさに、過去は学びの宝庫だと実感した。そんなわけで、過去に埋もれた実践を掘り起こし、今に生かしたいと考えたのである。

キャロルとは？

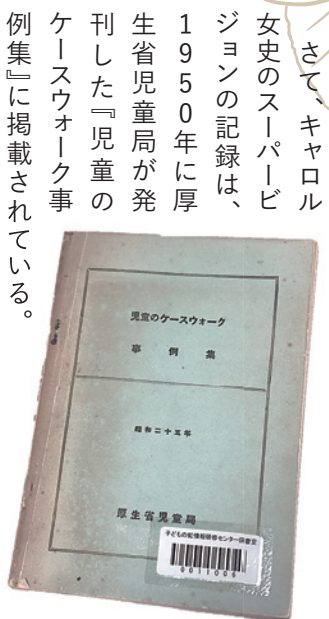
とはいえ、キャロル（アリス・K・キャロル女史）と言っても、今では殆どの人が知らないのではないだろうか。

彼女は、もともとカナダで精神保健分野のソーシャルワーカーとして活躍していた社会事業家で、1949年11月、国連から日本に派遣されている。当時の日本は児童福祉法が施行された直後、つまり児童福祉の黎明期であった。キャロル女



史は、このような状況の日本に約10か月間滞在し、全国各地の児童相談所を訪ね、現任訓練、スーパービジョンを行い、多大な足跡を残したのであった。現に、厚生省児童局が初めて発刊した「児童福祉マニアル」は、日本に滞在中の彼女が執筆したものだ。まさに、わが国の児童相談所改革の先駆者と言えよう。

昭和25年『児童のケースワーク事例集』



14

さて、キャロル女史のスーパービジョンの記録は、1950年に厚生省児童局が発刊した『児童のケースワーク事例集』に掲載されている。この事例集には全国から71編の事例が届けられ、その中で11編が選ばれて掲載されている。編集後記には、「発達過程にあるわが国のケースワークそのまの姿として、不十分な点も少なくないが……何れも取扱者の専門的な指導や血のにじむような苦心のあとがうかがわれ」と記載され、GHQの福祉教育係長フロレンス・ブルーガー女史も言葉を寄せ、「若し児童の福祉が確保されたならば、日本の将来は安全であります」などと述べていた。事例を読むと、黎明期ならではの努力の跡が浮かび上がり、ある意味では感動的な内容であった。

それはさておき、キャロル女史のケース指導（スーパービジョン）は、それら11編とは別に編



出すると、児童相談所で保護されても無断外出し、あちこち放浪した末、福岡県で金品を盗み込んで検挙される。B男を委ねられた現地の児童福祉司は、自宅に連れ帰って家族が寝食を共にし、温かく接して、最後は里親委託を選択する。こうした経過を聞いたキャロルは、「福祉司

は、B男と父母や伯父との関係をよく調査し、B男が家庭の愛情を必要としていたことを理解してこれを与えている」と高く評価、引き続き里親とB男との関係を助けてゆくよう助言したのであった。

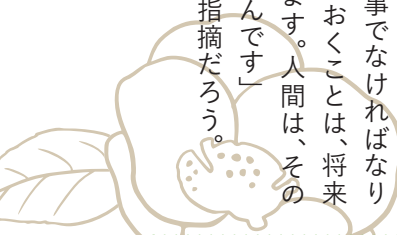
不義の子

「闇行商をする中年女性が60代のならず者男性との間の子を出産した」という事例が報告されていた。

「この子が邪魔で行商の仕事ができません。預かって欲しいんです」

女性が訴える。こうした相談は、当時も数多くあったようで、児童福祉司は、「乳児の養育問題は、常識のある素人でもできる。（こうした事例のために）不良化した児童への対応に時間を割けられないのは残念だ」と嘆く。

「不義の子を含めて、子を産んだ母とその子の養育問題は、決して素人に任せるべきでなく、練達のソーシャル・ワーカーの最善の努力が必要です。乳児が、最も大切な愛と安全感を初めから欠くことなく育つか否かは、ソーシャル・ワーカーの最も大きな関心事でなければなりません。ここをしつかりやっておくことは、将来の不良児童の問題を予防します。人間は、その乳幼児期が最も大切な時期なんです」



新聞売りの少年

次は、早朝に新聞売りをしていた少年A男が、登校を嫌い、家のものを持ち出して売るようになった事例。これに対する児童福祉司の取り組みに、私は驚愕した。新聞売りをサボるようになったと聞かされると、午前4時半に家庭訪問し、A男を起こして新聞売りに送り出したのである。しかも、これを2週間続けたというのだから、今なら、あり得ないというほかない。敗戦後の日本の未来を託すべき子どもたちに対して、全身全霊を傾けて取り組む姿が目につかぶ。この事例、父親は死亡しており、キャロルは「子どもの問題の原因を母親に説明できたか」と児童福祉司に問いかけ、次のようにアドバイスした。

「A男に必要なことは、自立のために彼に適した職業の準備をすることである」

「母はA男が一人前の大人に育つよう助けなければならぬ」

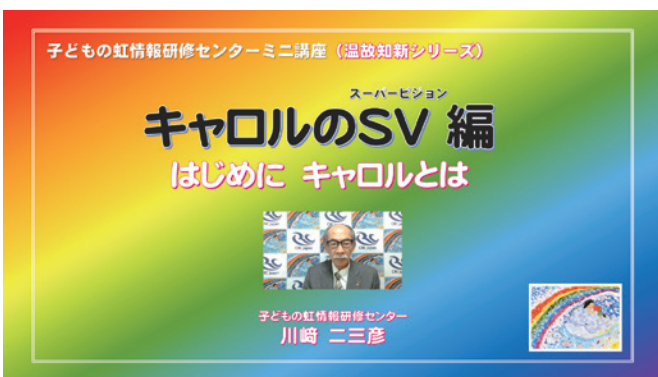
そして、次のように結論づける。

「母を助けてゆくのが児童福祉司である」

ソーシャルワークがどのような使命を負っているのか、日本全国が模索しているなかで、その本質を端的に示したように、私は感じたのであった。

浮浪児

当時大きな社会的課題となっていた浮浪児の問題も取り上げられていた。京都で暮らしていたB男は、父母が死亡して兵庫県の伯父宅に預けられると、朝から晩まで働かされた上、「働きもしないくせによく食べる」などと嫌みを言われる毎日。耐えかねて家



キャロルのスーパービジョンは、
左のQRコードで視聴することができます。
是非ご覧ください。

15

日本子守唄紀行

鵜野 祐介

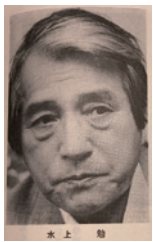
(立命館大学教授／子守唄・わらべうた学会代表)

第17回 「水上勉と若狭の子守唄」(福井県)

今回は、私が現在勤務する立命館大学文学部に縁のある作家・水上勉が祖母から聞いていたと思われる福井県若狭地方の子守唄について紹介してみたい。

文学部のある衣笠キャンパスの南側に臨済宗天龍寺派の万年山等持院がある。貧しい一家の六人兄弟の次男に生まれた水上勉は、九歳で故郷若狭を離れて京都の臨済宗相国寺塔頭の瑞春寺に入門した。そして「三歳の時、寺を脱走し、京都の叔父に説得されて再入門したのが等持院だった。旧制花園中学校に通いながら、この寺で小僧生活を五年間過ごした。

中学卒業後の一九三七年四月、水上は立命館大学文学部国文学科に入学した。昼間は膏藥の行商をしながら夜間部に通っていたが、やがて同級生たちに誘われて遊興に耽るようになり、心機一転を図って、半年後に大学を退学して満州へ渡った。ちなみに、当時の立命館大学の校舎は河原町広小路にあり、水上が現在の衣笠キャンパスに通ったわけではない。



ところで、一九八〇年四月に京都の大学に入学し、一時期「はしか」のように水上作品に耽溺した私にとって、二〇一三年に立命館大学文学部に赴任した時、水上と「再会」することになればと密かに期待していた。そして今回、北陸地方の子守唄を紹介しようと決めた時、当地の精神的土壌から生まれ育まれた子守唄が、水上の私小説的作品やエッセイの中で紹介されているのではないかと思いついた。そこで、若州一滴文庫に電話で問い合わせてみた。同館は水上が出身地福井県大飯郡おおい町に私財を投じて、一九八五年に開館させた総合文学館である。すると、対応された学芸員の下森弘之さんが教えて下さったのが「げんげの花よ」だった。

げんげの花よ オ なぜ泣くぞオーエ

親アないか、子オないか

親はあれども かりがねよ

だとされる阿弥陀堂跡「おりん堂」と供養塔、水上家の菩提寺である西安寺、祖母の手を引いて勉が登ったという石段などを巡った。緑濃い谷間の集落はひっそりとしていたが、幼い勉に手を引かれて、寺へと続く長い石段をよろよろと登りながら、「げんげの花よ」を口ずさむ盲目の祖母の姿が目に残った。

一滴文庫への訪問に前後して、水上版「げんげの花よ」を収めている可能性がある文献資料を可能な限り渉猟していった。その結果、現時点での水上版に最も類似するものが次の唄である。

げんげの花よ なぜ泣くの なぜ泣くの

ととさんかかさん あるけれど

かかさん川原へ ななつみに

ととさん丹波へ 金掘りに

一年たつても 帰りやせぬ

二年たつても もどりやせぬ

三年目には ちとみえて

四年目には もどらんした。

(福井県教育委員会編『福井県の民謡―民謡緊急調査報告書―』一九八八・一八六、大飯郡大飯町本郷)

また、同町内で手まり唄としても類似する詞章が歌われていた(『大飯町誌』一九八九・462、大飯町大島地区)。

一方、石川県でも押水町・志雄町・羽咋市土橋町・志賀町徳田・柳田村において子守唄や手まり唄として歌われていた。

坊やの父ちゃんどこ行った金が湧くとて金山へ
一年経つても状が来ぬ二年経つても状が来ぬ
三年三月のお十九日の朝の六つに状が来て……

(石川県教育委員会文化課編『石川県の民謡 県内民謡緊急調査報告書』一九八一、土橋町)

同書に掲載された五編に共通して、「子どもの父親／母親／お守(子守娘)が金山へ行つて、一年経つても二年経つても状(便り)がなかったが三年目に状が届く」というモチーフを含む。以上より福井県や石川県で同系統の詞章が子守唄や手まり唄として歌われていたことが推測される。但し、石川では金掘りに行った場所が丹波(丹後)と特定されてはいない。

さらに、京都にも類似する詞章を持つ手まり唄が記録されている。

げんげん花や たちばなや

かかは河原へななつみに

ととは丹後へ金掘りに

三年たつてももどりやせぬ

(水上勉『地の乳房』福武書店一九八二・下116)

水上の父母をモデルにした長編小説『地の乳房』に、盲目の祖母いしが孫の誠を背にくくりつけて、子守りをしながら繰り返し歌った唄として紹介される。水上はエッセイ『ものの聲 ひとの聲』(一九八〇、文庫版一九八五)にこう綴る。「そして、サザエのふたみたいな眼をした祖母がいた。祖母はいつも私に寄り添うようにしていた。……そういう陽だまりみたいなもののあったことを漠然と思い出させる」(一九八五・11・12)。祖母は彼が四歳の時に亡くなったが、祖母がモデルとなったいしの歌う子守唄(以下、水上版「げんげの花よ」)は、福井県若狭地方の伝承子守唄の可能性が高い。

『地の乳房』の中で、この唄の歴史的背景について姑のいしが嫁の愛に語る場面がある。それによるとこの子守唄は、兵庫県丹後地方の生野鉾山に出稼ぎに行つた父親が三年経つても戻って来ず、その身を案じている子どもの心情を「げんげの花」(「れんげ」)に置き換えて歌ったものだった。若狭地方から数多くの年若い男女が生野鉾山に出稼ぎに行き、過酷な労働で病に倒れ、命を落とした。底辺の暮らしにあえぐ人びとの哀訴がこの唄に残響していた。

五月一六日(土)、若州一滴文庫を訪ねた。新緑が眩しい広い庭園を中心に、本館、竹人形館、くるま椅子劇場、茅葺館、六角堂(休憩所・食堂)の諸棟が配置されており、二万冊を超える蔵書や、水上文学にゆかりの画家たちの絵画作品や竹人形たちが迎えてくれた。図書室の一角に、絵本や木の玩具などが並んだ子どものためのスペースがあるのも嬉しかった。

一滴文庫を後に、歩いて約五分、岡田地区を散策した。水上の代表作の一つ『はなれ警女おりん』のモデルとなった警女が娘とともに住ん



京の娘が 木綿三尺買うて
あるのに ないとおっしゃった……

(旧京都市域、高橋美智子『京都のわらべ歌』柳原書店一九七九・64)

……わたしの弟の千松が、
七つ八つから金掘りに、
金を掘るやら掘らぬやら、
一年待つてもまだ見えぬ、
二年待つてもまだ見えぬ、
三年三月で状が来て……

(丹後地方各地、高橋一九七九・60)

後者について、高橋は「千松手まり歌」の類歌だと紹介している。「千松手まり歌」とは、「一七世紀中期に仙台伊達家で起こった「伊達騒動」を元にした人形浄瑠璃「伽羅先代萩」(二七八五)の義太夫節に因む。「わしが息子の千松が、七つ八つから金山へ、一年待てどもまだ見えぬ、二年待てどもまだ見えぬ……」。「伽羅先代萩」は歌舞伎や浄瑠璃として全国各地に上演され、手まり唄や子守唄としても広く歌われるようになった。水上版「げんげの花よ」も「千松手まり歌」の系譜に連なると思われる。

ところで、これまでに確認できた文献資料のうち、楽譜付きのものはない。一方、音源資料としてCD『日本の子守唄 ふるさとエレジー』(歌：渡辺静香、制作：CTA、二〇一三)に収録の「げんげばな」がある。但し、この唄の伝承地や出典はライナーノーツに記載されておらず、学術性に乏しい。採譜して参考までに載せておく。

げんげばな げんげばな なぜなくの

親がいないか 子がないか

げんげばな げんげばな なぜなくの

ゆったりとした四拍子で、(低)ラシードーミフアラというヨナ抜き短音階だが、音域がかなり広く、編曲者により改変された可能性もある。現在、一滴文庫や全国わらべうたの会をはじめ、いくつかの団体や知人に問い合わせしており、いつの日か水上版「げんげの花よ」をメロディ付きで「若狭の子守唄」として復元できればと期している。

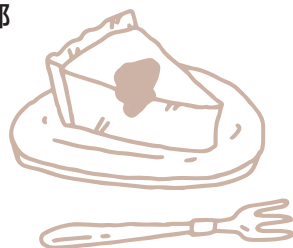
最後に、取材にご協力下さった若州一滴文庫の学芸員・下森弘之さんに紙面を借りて謝意を表したい。



通巻

帯津良一

姿勢の良さも 幸せのうち



90歳を過ぎて何カ月かになりましたが、今だに

「先生は姿勢が良いですね！」

というお褒めの言葉をいただきます。圧巻は20年以上も前のことですが、ホメオパシーの勉強に訪れたスコットランドのグラスゴウで、女医さんの一人から

「あなたは歩き方がいいですね」

と言われたことです。長身の美人さんからの言葉に、恥ずかしさに身をすくめたものです。

しかし、これまでに姿勢を正しくしようとか、歩き方を良くしようなんて考えたことは一度もありません。ただ、立ち働くことを養生法のトッブに持つて来た身としては、姿勢を正しく立ち働いたほうが、養生の効果もより高くなるのではないかと思つて、ほつとしたものでした。

たしかに気功の会などでも、会場内を見渡すと姿勢の良い人が少なからず居るものです。その筆頭は猫背でしょうか。猫背は『広辞苑』によりますと

ねこぜ〔猫背〕首がやや前方に屈み、背が丸く

なっていること。また、そういう人。

とありますように、背が丸くなっているのはあまり見好いものではありません。特に太極拳に至っては多少不利と言わざるを得ませんね。

自分が猫背でないことに感謝したのですが、敢えて意識したわけではないのに、なぜなのだろうかと考えてみました。そして閃いたのです。永いこと遍歴を重ねた武術や気功のおかげではないかと。もともと小柄でしたので、少しでも強くなりたいと武術には興味がありました。そして、中西医結合からホリスティック医学に向かう、がん治療に於いて気功の存在意義は弥が上にも高まっていたのでした。

そして、その遍歴はといえば、柔道、空手、柔術、呼吸法、気功、太極拳というものでした。トッブバッターは柔道でした。1949年、同級生の小柄な三人組が市内の町道場に通いました。稽古が済むと、三人して近くの駄菓子屋さんに立ち寄つて、ラムネを呑んだのが楽しい思い出ですが、恒例の道場の紅白試合で、私が三人抜いて表彰されたのも佳き思い出です。



の経絡や経穴に瞬間刺激を与えて倒す柔術です。経絡や経穴といえば鍼灸の治療点です。ということは倒される度に健康を勝ち取つていくということになります。ここにまず養生法としての魅力を感じました。

一方、攻める側は、相手の経絡や経穴に手指が触れた途端に臍下丹田の気を一気にここに運ばなければなりません。まさに気功の三要である調身、調息、調心です。そして、そのためには正しい姿勢が要求されます。これがまた八光流柔術の魅力です。ということで八光流柔術にのめり込みました。

ところが、言うは易く行うは難し。なかなかこの技を掌中に収めることができません。そこで一計を案じました。呼吸法を併せるとよいのではないかと。呼吸法の本部を探しました。ありました。当時勤務していた東京都立駒込病院の近くに調和丹田呼吸法の本部があったのです。

調和丹田呼吸法は江戸時代に臨済宗中興の祖と崇められた白隠禪師がその著『夜船閑話』で提唱した呼吸法を基に、明治時代に真言宗の僧侶である藤田靈齋師が編集した呼吸法です。すぐに入門しました。当時は村木弘昌師が二代目の会長を務めていましたが、この先生のリードで大変楽しく学ばせていただきました。蛇足ながら申し上げれば、村木先生のあとの三代目の会長を私が務めたのですから、すっかり白隠禪師を好きになってしまいました。

1957年、東京大学医学部

に進学すると、待つてましたとばかりに空手部に入りました。流派は和道流。師範は大塚博紀先生。じつに静かな、やさしい先生でした。

「ぶす！あとは楽うに！」

という先生の掛け声がまだ耳に残っていますし、有名な七徳堂での週二回の稽古もほとんど休まず、初めて学ぶ医学と同じように情熱を燃やしたものでした。

当時の空手の試合は五人の選手で争い、三勝した方が勝ちというものでした。さすがに全学の正選手に選ばれたことはありませんが、医学部の対抗試合では大いに活躍したものです。毎年夏に

東日本医科大学体育大会

というものが開かれ、いつも医学部に籍を置く空手部員が急拵えのチームを作つて参加したものでした。一人足りなくて柔道部から一人お借りして参加したこともありましたが、五人はなんとか揃えることができていました。大将には私の同級生ですが、医学部進学浪人中にも空手の

次いで1980年9月の北京市がんセンターの訪問です。ここで初めて気功に出会いました。当時は日本ではまだ気功はやっていませんでした。気功の草分け的存在として津村喬さんや星野稔さんの名を目にすることはありましたが、練功風景を見ることはまだなかったと思います。

調和道の丹田呼吸法に親しんでいたからこそ気功がすんなりと入つて来たのではないでしょう。うか。そして1982年に郷里の川越市に中西医結合のがん治療を旗印にした気功道場のある病院を開設し、次いで楊名時先生との出会いに至るのですから、この流れはあまりにも大きな流れです。さらに姿勢の良さによつて幸せな後半生を手に行っていることを考えますと、この流れは私の宝物と言ふべきではないでしょうか。

帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

直島便り ③4

さつちゃんのばら寿司



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

ここ直島では、去年の十一月で瀬戸内芸術祭も終わったはずなのに、令和8年の今も、まだ芸術祭が続いているかのように、観光客が後を絶たない。
自転車に乗ったり歩いたり、めいめいが島じゅうを歩き回っている。

日本の島のなかで、直島ほど外国人が多く訪れる島は、ほかにはないのではないかと思ってしまう。この頃は、道に迷っても、買い物や食事でも、スマホのグーグル検索や翻訳サイトなどを使って何とかなる。すごい時代になったな、と思う。

そんなにぎやかな島のなかでも、私たち島の高齢者たちは、相変わらずマイペースな交流が続いている。

一昨年の春のことだ。近所に、ばら寿司づくりの名人として有名な「さつちゃん」という知り合いの女性がいる。彼女から、「これからお寿司（ばら寿司）を持つていくから、表に出て待ってね」と連絡があった。

言われた通り表に出て待っていると、電動のシニアカーに乗ったさつちゃんが、すいすいと坂道を登って、私の家までやってきた。

「今日は私の誕生日。85歳になりました。これ、自分のお祝いの気持ちだから食べてね」と、さつちゃんは、持ってきたばら寿司を差し出した。できたてのご

飯のぬくもりが、手のひらに伝わってきた。

「ばら寿司」は香川県の郷土料理で、この辺りでは何かあるごとに、ばら寿司を食べて祝う。実は、さつちゃんは島で色々なイベントがあるたびに、ばら寿司をつくってみんなにふるまってくれる人なのだ。

ばら寿司に入っている具は、あなご、さわら、えびはもちろん、瀬戸内の季節の魚や、山菜、野菜などなど。どの家でも、大体似たようなものではあるが、つくった人の味加減が微妙に違ってくる。そしてこの辺りでは、さつちゃんのばら寿司は特に美味しいと評判だ。いつ食べても飽きない、とても懐かしさを感じる味が魅力である。

私はさつちゃんに「ありがとう」とお礼を言って、そのばら寿司をいただいた。美味しいばら寿司をいただいたこともさることながら、高齢になり、誕生日を祝ってくれる身内も少なくなったなかで、自分でつくったばら寿司を親しい人に食べてもらおうとする、さつちゃんの心のぬくもりに感動した。

「そうだ、来年からはさつちゃんのお寿司を友達みんなで食べて、一緒にお祝いしようよ」と約束した。ちょうど桜の咲く頃なので、我が家の庭にある桜の木の下で、楽しいお花見ができる。

翌年、第一回目の誕生日祝いは、桜こそ咲いていたものの、残念ながら雨。私の家のリビングで、ばら寿司やケーキを食べて、お祝いをした。
そして今年は、素晴らしい晴天。庭の桜を眺めながら、さつちゃんのお祝いを楽しくすることができた。

我が家の庭は、雑草が伸び放題だが、除草剤など撒かないので、草の良い匂いがする。海のほうに目をやると、向こうには豊島、その先にうつすらと小豆島が見える。

そんな庭に咲く桜を、色々な角度から多くのの人に見てもらいたいと常々思っていた。道から少し下った我が家の庭に入れば、桜を真下から見上げることができる。そこで、「どうぞ下にも降りて、花を見てやってください」と書いた看板を、友達につくってもらった。

看板の言葉ひとつで、通行人が遠慮なく下に降りるようになり、写真を撮ったりしてくれる。若い人たちは、桜を見て「やばーい！」と感嘆の声をあげていた。この感動が、SNSなどを通じて、桜を見たことがない外国人の人たちにまで広がるかもしれないと思うと、なんだか嬉しい。

ちょうどこの誕生日祝いの前日、私はあるお寺の花祭りに行き、たくさんのお花をいただいていた。その花を吸水スポンジに挿して生け、さつちゃんと、もうひとりの「直島の宝」と称される94歳のヨガの先生、そして最近ご主人を亡くされたお友達に、ひとつずつ手渡しした。

そして、「来年もまた、さつちゃんのばら寿司を食べて、ハッピーバースデーを歌おうね」と約束して、いっぱい笑って、今年のお花見はお開きとなった。

合掌



活動報告

○3月28日(土) 13時〜
ふる里のうた 〜詩の朗読とトーク

声優の近藤奈保さんとギタリストの藤井秀亮さんによる絵本「つらのぼうや」朗読劇や、国見修二さん、近藤征治さん、貝塚津音魚さん、西館理事長らがふる里の思い出を語り、会場は懐かしさと穏やかな雰囲気になりました。



○4月12日(日)
友家しづ
「じづの源氏語り」

絹の素晴らしさに目覚め、蚕を育て、神秘の世界を体感しておられる友家しづさんが衣の視点で『源氏物語』をわかりやすくお話ししていただきました。ジョークを織り交ぜながらのお話は飽きることなく、『源氏物語』と衣の魅力に引き込まれました。



○4月29日(祝水) 13時〜
ホキ徳田

フジコ・ヘミングのピアノによるミニコンサート

ピアノは超一流でありながら、ホキ徳田さんの話術は見事で、楽しいおしゃべりコンサートとなりました。まったくと言っていいほどに屈託がなく、自然体でいて明るく会場を笑いと素晴らしい音楽で満たしてくれました。



○5月9日(土) 14時〜
高橋操 ピアノソロコンサート

フジコ・ヘミングさんのピアノによる高橋操さんシャンソンの調べと、シャンソン歌手フジタリジさんによる歌も披露されました。ラ・カンパネラなど、沢山の楽曲を披露してくださいました。



○5月16日(土) 13時〜14時
植物学者 里見哲夫

『遊びと学びの自然教室』

里見先生のお部屋で下仁田音頭の調べと歴史を教えていただき、歌と踊りを実際に覚えて楽しみました。下仁田ブルースなど、下仁田音頭以外の曲も大変興味深く楽しいひとときでした。



○5月23日(土) 13時〜14時
堀越教之住職の『心の健康教室』

常光寺(群馬県下仁田町宮室)の住職であられる堀越教之氏の講演会は始終楽しく、生きる意義や、この現代を全力で生き切ることにしてお話を窺いました。わかりやすく楽しいお話しに、参加者の方々と版画仲間の皆さんの、和気藹々とした明るい雰囲気、部屋を満たしていました。



○6月13日(土) 13時〜14時30分
映画音楽をあなたに
〜サントラ・コンサート

DJパーソナリティで文筆家でもある志田一穂さんを迎えて、懐かしい映画音楽のレコードを聴きながら、作品の解説を楽しくお聞きしました。レコードジャケッから当時の思い出が蘇ったひとときでした。



※そのほか、相川厚先生の「健康講座」、高橋美清尼僧による「青空説法」など毎月回開催しております。詳しくは日本子守唄協会ホームページもしくはFacebookにてご確認ください。また、当協会へ直接お問合せ(03-6458-0283)でも受け付けております。

4月、5月、6月 第2・第4週の子供配食は滞りなく終わりました。また7月から続けて始まります。お困りの方はぜひご利用くださいませ。

応援がしてくださいます方々

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本子守唄協会への応援をよろしくお願い申し上げます。

2026年4月1日から2026年6月16日現在 五十音順 匿名希望6名(敬称略)

「個人」

青木 園衛
青戸 雅之
浅井 典子
麻生 智
安倍 昭恵
新井 登
荒井 広幸
有馬 絹
飯田 清子
井坂 義雄
石川 千安希
市川 浩司
市川 美保子
伊藤 正浩
伊藤 守
伊庭 桂子
猪塚 育代
今井 弘子
今井 要一
今村 威
今元 弘子
上原 一美
内野 経一郎
鶴野 祐介
梅田 郁子
梅津 恒夫
大河 原尚夫
大島 直次
大島 満吉
大塚 恵枝
大西 義威
大野 隆司

近江 千穂
小笠 原茂
岡本 喜久穂
小澤 幸一
奥山 糸子
尾原 昭夫
帯津 良一
春日 宏美
片山 雅文
門山 榮作
川田 利夫
神崎 邦子
蒲原 節子
神戸 精一
菊池 弥生
北 実
木下 俊明
木村 泰雄
久良 木恵子
国見 修二
栗林 欣一
剣持 英子
小井 土元章
小林 ヒデ子
近藤 征治
齋藤 進也
齋藤 秀子
酒井 董美
坂野 美恵子
坂元 威佐
佐々木 喜久子
佐藤 久光
佐藤 久光
佐藤 穰

佐藤 洋詩恵
柴崎 千恵子
清水 睦夫
白石 源次郎
神 秀俊
新保 啓
須賀 正二
菅原 芳徳
杉野 善彦
杉本 太郎一
須崎 晃一
鈴木 登
鈴木 みゆき
鈴木 義広
砂山 一子
瀬端 真弓
芹澤 文子
田井 二郎
大小 原久子
高田 昌子
高橋 敏博
高橋 如晴
高原 政子
高松 榮子
田島 葉子
棚橋 牧人
棚橋 美和子
A.T.
玉井 祥子
千野 千鶴子
辻 容子
徳永 雅博
泊 和男
富田 純明

永田 亨
中谷 比佐子
中根 宏昭
永野 一昭
永見 徳代
西尾 まさ
西尾 路子
庭山 正一郎
根元 健二
則武 清司
橋本 昌
初澤 永子
服部 弘志
馬場 妙
林 智子
原 昭邦
原田 直之
平川 智恵子
廣畑 心香
福井 昌平
福井 典子
福島 昭子
福永 教正
藤澤 昇
藤島 寛昌
藤間 聖涼
藤森 久美子
堀越 教之
本條 秀太郎
本多 宏子
前川 敬子
増田 善弘
松崎 マチ子
松代 洋子

松永 忠夫
黛一子・治男
水野 晴夫
三森 弘之
宮崎 壽子
宮地 勝美
村井 繁雄
諸星 京子
安岡 富士子
矢萩 昌道
山浦 毅
山川 忠
山口 敏明
山口 洋子
山崎 秀甲
山下 貞子
山下 貞子
山田 鋭夫
山根 光恵
山村 樵人
山元 絵津子
山本 ヤエ子
横谷 和子
吉岡 尚志
吉川 宜範
吉田 由美子
渡邊 武雄

医療法人社団赤坂坦誠会
医療法人田口会新橋病院
株式会社力ガヤ不動産
株式会社大協エネルギー
株式会社
株式会社藤原書店
株式会社佛蘭西屋
株式会社ミールケア
宗教法人 天台宗常光寺 西光寺
セカンドハーベスト・ジャパン
全国わらべうたの会
長谷川トラストグループ株式会社
両国幼稚園



ご寄付の応援を お願いします！

日本子守唄協会の活動は、皆様からの
ご寄付に支えられております。すべての子
ども達が希望に満ちた未来をつかめるよ
う、皆様のお気持ちの託された寄付金を、
様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様には小冊子
「ららばい通信」、イベントのご案内、ま
た活動報告をお送りさせていただきます。
どうぞ時期や金額に関わらず、年間
を通してご寄付をお願い申し上げます。
ご寄付への詳細は、日本子守唄協会事務
局までお問い合わせください。

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012 トクヒ)日本子守唄協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

- ◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思
うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真など
も募集しております。
- ◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの
活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えくださ
い。「ららばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？
- ◎皆様と共にららばい通信をより良いものにしていきたいと考えて
おります。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

日本子守唄協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054
東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
TEL 03-6458-0283
FAX 03-6458-0284
Eメール info@komoruta.jp
URL https://www.komoruta.jp/



↑HPはこちら

ららばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。